

産業水道常任委員会会議記録

日 時 令和元年8月9日（金曜日）

午前10時 0分 開議

場 所 水戸市議会 第4委員会室

午前10時36分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

① 水戸市市制施行130周年記念 第52回水戸の萩まつりについて

(2) その他

2 出席委員（7名）

委員長	大津亮一君	副委員長	森正慶君
委員	田口文明君	委員	黒木勇君
委員	渡辺政明君	委員	栗原文隆君
委員	内藤丈男君		

3 欠席委員（なし）

4 委員外議員出席者（1名）

議員 田中真己君

5 説明のため出席した者の職、氏名

産業経済部 参事	川崎幹男君	産業経済部 技監兼 農政課長	深澤和広君
商工課長	小林一仁君	観光課長	堀江博之君
農業環境整備 課長	小田博之君	農業技術 センター所長	清水健司君
公設地方 卸売市場長	武田和馬君		
上下水道 事業管理者	檜山隆雄君	上下水道局 水道部長	伊藤俊夫君
水道総務課長	梶山哲君	経理課長	栗原千尋君
料金課長	倉田佳則君	水道整備課長	杉山健一君
給水課長	梶山学君	浄水管理事務 所長	島孝夫君
農業委員会 事務局次長	吉川正浩君		

6 事務局職員出席者

法制調査係長 富 岡 淳 君 書 記 矢 吹 友 鏡 君

午前10時 0分 開議

○**大津委員長** おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから産業水道委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして、小田木産業経済部長、横山農業委員会事務局長が病氣療養のため欠席との連絡がございましたので、御報告いたします。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、報告事項の説明を行います。

水戸市市制施行130周年記念 第52回水戸の萩まつりについて、執行部より説明願います。

堀江観光課長。

○**堀江観光課長** 資料の御説明の前に、この場をおかりいたしまして一言お礼を申し上げさせていただきます。

過日行われました水戸黄門まつりにつきましては、産業水道委員の皆様方には大変お世話になりまして、まことにありがとうございました。

7月20日の花火大会につきましては、約7,000発の花火を打ち上げ、多くのお客様の歓声で盛り上がりも見せたほか、8月3日には、水戸黄門カーニバルや神輿渡御、さらには新たに水府提灯を活用した水戸黄門提灯行列を開催し、議会の皆様にも御参加いただきました。4日には山車巡行やたたき合い、市民みこしとしては日本最大級のふるさと神輿をお披露目し、渡御を行うなど、大きな盛り上がりを見ることができました。

おかげさまで多くのお客様に御来場いただくことができました。

改めて産業水道委員の皆様方の御協力に厚く感謝申し上げます。

今後とも、さらなる観光振興に努めてまいりたいと存じますので、御指導、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、観光課提出の資料に基づきまして、水戸市市制施行130周年記念 第52回水戸の萩まつりについて御説明いたします。

水戸市市制施行130周年記念、第52回水戸の萩まつりにつきましては、四季観光の一環として、日本遺産である偕楽園において、観光誘客の促進に努めるとともに、本市観光のイメージアップを図ることを目的として開催いたします。

期間は令和元年9月1日から9月23日までの23日間にわたり、偕楽園を会場に開催いたします。

主なイベントといたしましては、水戸黄門漫遊一座や水戸の梅大使との記念撮影、野点茶会、俳句大会のほか、9月14日には園内をライトアップし、秋の名月を觀賞しながら、演奏と食事を楽しむ月見の宴を開催するとともに、ライトアップされた偕楽園を表門から御案内する偕楽園ナイトウォークやキャンドルライトアップを開催してまいります。

裏面2ページをごらんください。

期間を通した取り組みといたしましては、市民観光ボランティア、歴史アドバイザー水戸による案内ガイドを行ってまいります。

広報といたしましては、ポスター掲示や新聞雑誌、ホームページ、SNSなどを活用してまいります。

今回の見どころといたしましては、9月23日に14年ぶりに水戸薪能を開催します。秋の夜の静寂の中、かがり火をたき、日本の伝統芸能の1つである能や狂言を楽しむことができます。入場料は3,000円になります。

説明につきましては以上でございます。

○**大津委員長** 内容について、何か御質問等がございましたら、発言を願います。

渡辺委員。

○**渡辺委員** この水戸の萩まつりの件なんですけれども、毎回、さまざまな事業を展開しているというようなことで、本当に観光課の皆様の御尽力には敬意を表するところでございます。

今、皆さんも御承知だと思うんですけれども、県のほうが、偕楽園公園周辺の観光振興基本計画というものを策定しようということで、星野リゾートに2,000万円で策定業務を委託して、その計画ができて上がるのが10月だと、きっと20日か末なのか、その辺だということなんですよね。

この内容を見ていると、水戸市が大体、主体になってやっていますよね。今後、例えば、県のほうの観光振興基本計画等には、水戸の萩まつりとか、そういうものがどのような形で組み込まれるのか、そういうところについては何か情報として入っておりますか。それとも、もう協議中とか、そういうところがもしわかればちょっとお聞かせを願いたいと思います。

○**大津委員長** 堀江観光課長。

○**堀江観光課長** ただいまの渡辺委員の御質問にお答えいたします。

まず、県との連携でございますが、水戸の萩まつりにつきましては、これまでも南崖のほうのライトアップをいただきまして、この萩まつり期間中ですと、9月14日に萩のライトアップ、これは県のライトアップをお借りしての事業となります。今、御指摘がございました星野リゾートの業務委託の観光振興基本計画については、水戸市にヒアリングしていただいている状況でございますが、今後とも県と連携しまして、さまざまな事業を展開できるように協議してまいりたいと考えてございます。

○**大津委員長** 渡辺委員。

○**渡辺委員** ありがとうございます。

今、お話あったように、県と協議をするような場もあるということで理解をいたしました。できれば、例えば、水戸市のほうから、その観光振興基本計画の中に、この水戸の萩まつりにしても、その周辺の企画事業にしても、やはり、私は提案するぐらいの気概を持って、県とちょうちょうはっししていただきたいんですよ。県から言われたことに、何でもはいはいと言ってたんでは、話にならないので、みずから自分たちのまちの大事な——この偕楽園の水戸の萩まつりにしても、これだけ水戸市がいろいろ手当してますよ。そのライトアップも県のほうの予算なんかどうかわかりませんが、やはり、水戸市がもっと主体性を持って、そういう基本計画をつくるときに、こういうものをぜひ組み込んでほしいと、水戸の萩まつりにおいては、例えば、もうちょっと予算を出してくれとか、これは例えばの話ですよ。それぐらいの気概を持って、どんどん意見を述べるというような地方自治体の、県庁所在地の水戸市になっていただきたいというようなことを要望しておきます。

○**大津委員長** ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**大津委員長** ないようですので、次に、その他に入ります。

委員より、何かございましたら、発言をお願いします。

内藤委員。

○**内藤委員** 私が見落としたのかも知らないけど、今回のお祭り、私も2日間行きましたけど、本当に立派にできてよかったなと思っています。

ただ、その中で、踊りがなくなったわけではないんだよね、あれね。早い時間にやったんだよね、私は見てないけども。それで、水戸黄門提灯行列というのを、遅くなってからやっとな。そこに私も参加したんですけれども、その行き帰り、それから、次の日にまちなかをずっと歩いていると、人も多く出たような気もするし、また、通行動めになっている路地に、いろんなそれ以外の空き地の路地というのかな、入ったと。そういうところにも、近くの店も恐らく椅子やテーブルを出しての商売かなと思うんですけれども、そういうところも、本当に人がいっぱい物すごくにぎわいがあった。本当によかったなと思っています。

ただ、その前のあたりの読売新聞あたりを見ると、ほかの地域のお祭りがあつたやつのどのぐらいの人が出てるとか、写真も載ってた。しかし、茨城新聞には載ってないんだよね、水戸のお祭りは。その3日、4日は。

その後、その次の日かな、私が、こちらの役所のほうに電話かけたら、載ってないんだけど、茨城新聞は何で水戸を載せないんだということを言ったら、次の日に載ったんだよね。だから、昨日かな、一昨日かな、載ったんだけど、3日、4日だよ、お祭りやったのは。

だけど、5日の茨城新聞には載っていない。それで、5日の日かな、いや、その後ですよ、載ったのは。結構、大きく上に載ったのは。載った、載んないはどうでもいいんだけど、ただ、普通なら、7万人出たとか、10万人出たとかって載るんだけど、どのぐらい出たのかなと私も気にしてたもんだから、随分、何回も読み直したんだけど、人の出というのは出てない。大体、執行部でどのぐらいかというのはつかんでるの。

○**大津委員長** 堀江観光課長。

○**堀江観光課長** ただいまの内藤委員の御質問にお答えいたします。

今回の水戸黄門まつりの観客数でございますが、花火大会も合わせまして、3日間で70万人でございます。

昨年は91万2,000人で、数字だけを比較しますと、これは大幅減ということでございますが、これにつきましては、観客数の計測方法を以前からもっと客観的な方法でと求められておりまして、今回のお祭りのリニューアルに際しまして、日本観光協会のガイドラインや他市の事例も参考にしながら、計測方法を変えたことによるものでございます。

来場者数の計測方法につきましては、前回までは前年との比較から計測する方法をとっておりましたが、今回からは、来場者を会場の各ポイントで計測し、イベントごとに会場の面積と、それから回転数を掛けて算出しております。

これにより、より実数に近い来場者数となっております。

ただし、委員のおっしゃるように、肌感覚としては昨年よりも人手が多い、それから、そういった声も届いておりますので、今後とも、さまざまな御意見を聞きながら、しっかり分析しまして、観客数を伸ばせるよう一丸となって取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

○大津委員長 内藤委員。

○内藤委員 どうもありがとうございました。

ちょっと、私、気にしていたもんだから、どうしたのかなということばかりが頭にあって、執行部のある方にも電話してしまったんですけど、そうしたら、次の日に載ったんだよね。だから、ほかのお祭りは次の日に載るんだけど、水戸はどうしておくれたのかなという気がひとつありました。それは構わないんですけども、それからもう一つ、おみこしは物すごい大成功だったと思うんですけど、担ぎ手だけでどのぐらい集まったんですか。

○大津委員長 堀江課長。

○堀江観光課長 ただいまの内藤委員の御質問にお答えします。

ふるさと神輿の担ぎ手の数でございますが、1回で約200名担ぎまして、交代要員の水戸神輿連合会や友好団体などの担ぎ手、さらには一般の参加者も含めまして、総勢で約1,000名ほど参加したというふうでございます。

○大津委員長 内藤委員。

○内藤委員 その1,000名の方の、土浦市とか石岡市とか、遠いところは東京とかってあるかもしれないんですけども、募集して、担ぎ手を集めたわけですよね。大体一番遠いところはどこから来ているの。

○大津委員長 堀江課長。

○堀江観光課長 お答えいたします。

正確には把握してございませんが、友好団体の関係ですと、首都圏、東京や埼玉、千葉、神奈川からいらっしゃるという方がございます。

○内藤委員 私も見ていて、もめごとちょっとあったみたいだけでも、これはお祭りだからしょうがないなと私も思ってますけども、ただその中で、私は途中、歩道の近くで見てたんだけど、四、五人はんてんを着た人がいて、どうですか、中へ入って重かったですかとか、よかったですかって聞いたんですよ。そうしたら、いや、私らはあそこには入れない、全然さわってない、もんでないというんですよ、そこにいた人がね。物すごい人だから、行っても担ぐところまでたどり着かないんだと思うんだよね、人が多くて。それで戻ってきたというのを聞きました。

その方も、私もどっから来たのって聞きもしなかったんだけど、恐らくこの近くの人ではないと思うんだよね。

水戸に新しい大きなおみこしができて、私もそこへ行って担ぎたいなと思って来たとは思うんですよ。ところがあの調子では、恐らくさわれないで帰ったと思うんですよ。

ですから、いろんなところから来て、参加して、もみたいなと思って来てると思うんですけども、あれだけの勢の人の中へ二、三人で入っていくということはなかなか難しいと思う。

それで、ちょっと見たら、はんでんにワッペンが張ってあるんですね。出だしに、あれ、参加する方に全部、張ってもらったわけですか。それはいいことだと思うんですけど、ただ、恐らく同じワッペンだったと思うんだよね、あれね。私だって、見ているわけじゃないけど、何人かしてみえる。だとすると、恐らく、そういう遠くから来てももめないで帰ってしまう。さわらないで帰ってしまうという、せっかく来たのに残念だったなと思う方もいると思うんですよ。それも1人、2人じゃなく、多くの人が。

ですから、そこをうまく、漏れなく、誰もとはいかないと思うんですけど、多くの人が参加しに来たわけですから、そういうのに入ってもめるように、少しでも、努力をしてほしいなど。南町から上に上がってきましたよね、あの水戸京成百貨店の上。そのとき途中で1回休んだんですね。それから上に行ってまた休んだ。ですから、私が1つふっと思ったのは、上に上がってくる人と、今度は帰りの方が、例えばワッペンの色が違うの、例えば、上がってくるときは青色つけたら、帰りは白色とか、これは大変なことなのかかわからないけども、そういう何か工夫を考えて、せっかく水戸のお祭りに出てきてみこしを担いでみたいなど思って来ているわけですから、1人でも多くの人にさわっていただいて、担いで帰ってほしいなどという気がしました。

ですから、来年はもう少し、何か工夫を考えて、やってほしいと思うんです。

これは要望ですから、よろしくお願いします。

○大津委員長 黒木委員。

○黒木委員 今、内藤委員からもあったんですが、水戸黄門まつりの件で何点か確認させていただきます。

まず、提灯行列。私たちも、議員も姉妹親善都市の議員さんも来てくださって、参加したんですが、翌日のあのテレビのニュースを見ますと、先頭から非常にきれいに並んで、立派にスタートしているんですが、私たち後方のほうは、静かに歩くということなんでしょうけれども、まず、音が何も無い中、もう一般の方々とかちごちやになりながら、最初は8列と言っていたんですが、8列にもなり切れなくて、ただ歩くだけのような状況になったという部分がありました。こういう部分を、今回初めてのことであったんですが、執行部はどういう形で確認されていますか。また、来年度以降、どうしていきたいのかというのがあれば、お聞かせいただきたい。

○大津委員長 堀江課長。

○堀江観光課長 ただいまの黒木委員の御質問にお答えいたします。

提灯行列についてでございますが、提灯行列については、一弛一急をテーマに静と動の2部構成としております。

1部の一弛は静かな曲調に合わせ進む行列で、2部の一弛のほうは山車や水戸太鼓も加わりまして、おはやしや太鼓の音色で勇壮に行進するものとしたものでございます。

実際に進みまして、確かに演者の部分はいろいろな方から、大変きれいだった、それから、また見てみたいというような御意見もいただいておりますが、一般参加のところ、参加者が大変多かったということでございますが、少し統一感というところが、欠けた部分がありました。

ただ、団体によりましては、それぞれの団体でかけ声をやっていたり、あるいは、同じ動きをしていただいたり、観客の方も楽しむことができたものだと考えておりますが、今言ったようなさまざまな御

意見ございますので、今後はしっかりと分析しまして、さらに改善して、よりよい提灯行列にしていきたいと思いますというふうに考えてございます。

○**大津委員長** 黒木委員。

○**黒木委員** 私たちも参加して、姉妹親善都市の議員さんの方々に、終わった後話を忌憚なく聞かさせていただく中で、今のような話がやっぱりありましたので、その場は私たち地元の議員としてフォローしましたし、また、次年度に生かしていくという話もさせていただきました。

しっかりとこの部分は次年度に改善しながら、生かしていただきたいと思います。

次は、ふるさと神輿の件なんですけど、これはどなたに聞いても、ちょっと、答えてもらえないという状況でありまして、このみこしの持ち主はどなたなのかということと、あと、この購入費用というのは幾らかかっているのか、また、現在、どこにみこしは行っちゃったのか、市民の方から、お祭りの前からずっとこのことを聞かれているんですけども、執行部のどなたに聞いてもわからないということだったんですけど、今でもわからないのか、それとも、わかる部分を教えていただきたいと思うんですけど。

○**大津委員長** 堀江課長。

○**堀江観光課長** ただいまの黒木委員からのふるさと神輿に関する御質問についてお答えいたします。

まず、ふるさと神輿の持ち主ということでございますが、2年ほど前にふるさと神輿の製作実行委員会というものを立ち上げまして、維持管理については、水戸神輿連合会、市民みこしということでございます。

実際に、今、保管してある場所でございますが、水戸市役所の内原庁舎の保管庫でございますので、今はそこに暫定的に置いてあるということです。

○**大津委員長** 購入金額。

○**堀江観光課長** すみません。漏れてしまいました。申しわけございません。

ふるさと神輿につきましては、市民の方や事業者の方から寄附を募りまして、そのふるさと神輿の製作については、寄附の目標が3,500万円ということで、これについては、3,500万円集まったということでございます。

○**大津委員長** 黒木委員。

○**黒木委員** これはPRということになるんですけど、私もいろんな方のところに行くと、今回リニューアルして日本最大級のふるさと神輿のお披露目がありますよとか、提灯行列がありますよと、また、花火大会も野村花火工業さんがプロデュースした花火で新しくなったんですという話をするんですけど、知らない、どなたに話しても知らないというのが、もう皆さん言われまして、私の地域だけなのかもしれないんですけど、この辺は、ちょっと、PRの仕方に問題あるのかなというふうには感じました。

広報の部分は、今回どのような、例年と変わった広報の仕方をされているのかどうか。

○**大津委員長** 堀江課長。

○**堀江観光課長** ただいまの黒木委員からの周知に関する御質問にお答えいたします。

今回、水戸黄門まつりにつきましては、リニューアルをしましたので、日程等も変わりましたので、市民を初め、多くの方にお知らせしていくことが大変重要と考えてございました。

そのため、まずは「広報みと」の3月15日号にはチラシを、そして7月1日号には花火と水戸黄門まつ

りのパンフレットを、それぞれ広報紙とともに全戸配布したところでございます。

また、今回はリニューアルということもございましたので、さまざまな広報媒体を活用したり、各種キャンペーンを実施いたしまして、その周知に努めたところでございます。

○**大津委員長** 黒木委員。

○**黒木委員** この市民への周知の部分は次年度へ向けてしっかりとまた取り組みを進めていただきたいと思えます。目標の100万人を達成しなかったということで、70万人ということでしたので、市民の方にもしっかり、もうちょっと伝えていけば、もうちょっと大きな反応、反響があるのかなというふうに感じました。

最後になりますけれども、全体通して、みこしも含めて無事故でできたのかどうなのかと、前回の委員会で無事故でやっていただきたいという質問をしましたので、お答えいただきたい。

○**大津委員長** 堀江課長。

○**堀江観光課長** お答えいたします。

祭りについては、やはり、安全、安心というのが最優先でございますので、今回については、大きな事故もなく、無事開催したと、大変よかったと思っております。

皆様の御協力に感謝いたします。

以上でございます。

○**大津委員長** 渡辺委員。

○**渡辺委員** まず、令和元年という新しい年にリニューアルして、第59回ですか、水戸黄門まつり、一言で言えば、終わりよければ全てよしと昔から言うように、事故も事件もなく閉じられたというようなことは大変よかったというふうに思っております。

まずもって、初めての試みのものが、大きなものが2つあったと、また、スケジュール等も大分変わったというような中で、観光課並びに産業経済部の皆様方、商工課も含めて、大変な御尽力をいただいたというようなことで、敬意と感謝を申し上げたいと思えます。大変御苦労さまでございました。

今、内藤委員、黒木委員からいろいろ指摘があったと思えます。同時に、今、一般市民からもいろんな意見があるかと思うんですね。

今は自由に物も言えるので、一人一人が評論家というような形になっているんで、自分が参加した部分についてなんですね。全体を把握した上でその部分の意見なんで、全体の中の1つの部分ですよというような答えも本当はあってしかるべきなんですね。

先ほど黒木委員、内藤委員から話あったように、私も提灯行列に参加したんですけども、全体を把握することはできないんですよ、直接参加していると。そうでしょう。自分のいる場所の周りで、見えるところしかわかんないわけだから。先頭がどうなってるのかなんてのはわからないし、また、そのとき泉町はどんなふうになってんだかというのもわかんない。自分がいるところしかわかんないんで、自分のいるところだけの部分の反省点とかになってしまうことがあると思うんですね。

ですから、一般からもいろんな意見を私も耳にしていますけれども、やはり、観光課のほう、商工課のほうにも、いろんな意見が来ているかと思うんで、そういうものを真摯に受けとめて、しっかり、精査して次

につないでいただきたいというふうには感じております。

私は今回のお祭りで大きな意義があったことがあるんです。それは、やっと初めて、日本三大ちょうちんの一つである水府提灯にスポットが当たったということなんです。岐阜提灯、八女提灯と並ぶ、この水府提灯、水戸の地域が育ててきたこの素朴で堅牢なちょうちんがやっと市民に幾らか認知されたというようなことで、お祭りというのはもちろん、市民が楽しむのも大事なことです。でも、やはり、このお祭りを通して、水戸の個性とか、魅力を発信するというのもまたこれ、大事なことであって、そういう意味では大きな足跡を残したというふうには私は感じております。

とりわけ、ちょうちんのコーナーがあったんですね。そこには、八女提灯と岐阜提灯と水府提灯の違いをきちっと書いたのがあって、初めて私も岐阜と八女と水府提灯の違いがわかりました。

そういう部分にやっぱりこの行政として取り組んだということは、私は大きないいことなんだなというふうに思っておりましたし、また、話を聞くと、当日参加したいというような人でも、もうちょうちんがないというぐらいなんで、例えば、ちょうちんなども負担する、あるいは、500円市民が負担して参加するようになっていました。

例えば、弓張りちょうちんだったら2,000円とか、高張りちょうちんを持って出たいという人は5,000円とか、これからもそういう市民参加型のお祭りにどんどんしていったら、私は参加する意欲が湧いてくるのかなと、行政がはいよ、はいよと全部上げるんじゃなくて、そういう御奉仕の、いわゆるお金を頂戴して参加すると、そういう方法もすばらしいのかなと思いました。

ですから、人数、何人、人が来たなんていうのは余りこだわらなくてもいいのかなと、100万人が来ても、150万人が来ても、数字の問題だから、それは幾らでも脚色できる数字なんで、やはり、お祭りの中に何があったのか、どういう意義があったのかと、そういうこともしっかり皆さん方にはチェックしていただきたい。

この、私もちょっと感じてたみこしなんです。前にもちょっとお話ししたように、今回も、ちらっと見させてもらって、大体、そうなるなどは思ってたんです。これは私の個人的見解ですよ。みこしというのは、やはり神様が乗るこしですから、だから、神社にみこし蔵があって、そこにみこしが入ってて、そこのお祭りのときにみたまを入れて、みこしが出てってそのみこしが休んだところがおかりやと言って、神社のかわりをするわけですね。そういうのが、みこし、日本伝統文化の中で築いてきたみこしのいわゆる出方だったわけですよ。

今回は、ふるさと神輿ってなってるんだけど、幹事の代表がいました。たすきかけているのがいて、うちの水戸東照宮さんなんですけれども、魁の兄さんがたすきかけてたけど、出る前にちょっと言ったのね。なめられちゃうとおまえ、全然、統一がとれねえぞって言ったら、やっぱり、いろんな団体の人たちが地域外から来て、その人たちはみたまが入ったみこしを担ぐのが目的じゃなくて、担ぐことだけが目的なんで、ちょっと違うんですよ、考え方が。ですから、そういう団体が大分来てました。グループで来てたんで、例えば、みこしの先棒って言うんだけど、正面の先の棒を担ぎたいというのは、これ、花形なんで、誰もが感じる。やってみたいでしょう、きっと。いや、俺だ、俺だってなっちゃうと、そこでどうしても、いさかいだの、小競り合いが起こるといようなことが予想はされてたんで、やはり今後、このふるさと神輿――

一番私が不思議に思ったのは、読売新聞には、市民みこしという表題が出てたんですね。市民みこし出陣つて。市民みこしというのは、市民が担ぐみこしなだけでも、幾ら市民が担ぎたいと思っても、あの場所に入れないの。あの中には入っていけないんで、やはり、その辺のところ、本当に、市民がみこしを楽しむというのは難しいんですよ、これ。そうでしょう、だって、背の高さがばらばらの人が急に集まってきて、担ごうなんて言ったって、絶対無理な話なんで。私に言わせると、これは個人的見解ですよ、みたまが入ってないんで、ただ単なる物体なんだよね。みこしではないんですよ。だから、それだったら、みんなが楽しめるようなみこしの渡御の仕方を考える。そうすると、渡御とも言わないんだけど。そういうものも考えなくちゃならないというようなことをちょっと感じました。

やはり、年に1回でしょうけども、このみこしは皆さんから寄附をいただいているわけですよ。いろんなお話をしながら、寄附をいただいているということがありますよね。目立つところに企業の名前を入れますよとか、そういう話でお金を集めているわけですから、企業の方の期待を裏切らないようにすべきというようなことを水戸市のほうは指導していかないと、後で、何だ全然PRにも何にもなんなかったよ、この間言われて、お金寄附したんだけど、なんていうことがないようにすべきなのかなと。それをするのが、次につないでいく大事なことだと思いますよ。そこでつまずいちゃうと、せっかく、善意で御寄附をさせていただいたおみこしなんで、それが全然PRに、みんな企業ですから、自分の企業のPRになるということで協力しているはずですから、信頼を失わないように、私はぜひ、その辺の指導をしながら、お願いしたいなど。あれだけ人が集まったんで、勇壮なみこしが渡御したんで、それをさらに盛り上げていただきたいというふうに思っております。

それで、最後なんだけど、私は別に答弁は要らないんです。自分が参加してたし、見てたんで、大体わかるんですが、自分の見たところしかわからない。テレビのニュースでやって全部がわかったというような形なので、できれば、そういうものをしっかり受けとめて、次に必ずつないでいきたい。

新しい発想で始まったんだったらば、これを通してながら、商工課さんなんかの協力を得て、この水府提灯をもうちょっとメジャーなものにしようよとか、そういう目標を掲げていただきたい。

むしろ、小田原提灯なんかメジャーなんですよ。三大ちょうちんに入っていないのに。そういう意味では、企業努力と行政努力が物すごくあるんですよ、小田原提灯は。そういうものも、やっぱり参考にしながら、ぜひ、水戸の手印として育てていくという、そういう熱い思いをこのおまつりの中にさらに組み込んでいただければなと私は個人的に感じておりますので、その辺のところ、いろんな意見がこれから出てくるかと思えます。そういうものをきれいに精査しながら、ぜひ、次につなげていただきたいというようなことをお願いをいたしまして、答弁は結構ですから、よろしく願います。

御苦労さんでした。ありがとうございます。

○大津委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○大津委員長 それでは以上をもちまして、本日の産業水道委員会を散会いたします。御苦労さまでございました。

午前10時36分 散会